

イノベーション —自分の頭で考え、行動する—

IPA 顧問、学校法人・専門学校 HAL 東京 校長
鶴保 征城

オーストリアの経済学者ヨーゼフ・シュンペーターは1912年に、著書『経済発展の理論』の中で、「経済活動において旧方式から飛躍して新方式を導入する」ことを、「イノベーション」と名付けている。あるいは、「生産手段の新結合」とも呼んでいるように、技術に限らず、生産方法、材料調達手段、販路、組織のあり方など生産手段の組み合わせを意図している。

更に、ピーター・ドラッカーも、「イノベーションは天才によるひらめきではない (Innovation is not flash of genius.)」と言っている。

日本語では「技術革新」と訳されることが多いが、これは誤解を招く表現だ。かつての日本の製造業が世界を席巻した名残もあって、「アジアメカに首位の座を奪われているが、技術は負けていない」とか、「企業内研究者の技術力が足りないから、ヒット商品の開発が進まない」などの意見が聞かれる。

これらの言葉に共通しているのは、技術そのものを鍛え世界のトップになれば、それだけで製造業というビジネスの競争力を強化することができる、という考え方だ。

一方、2015年7月に来日したGEのイメルトCEOは、「GEはメカなのかIT企業なのか」と聞かれて、「接続産業企業 (connected industrial company) だ。リアルとデジタルの交差点に立ち、デジタル化と同時に、製造業を更に進化させ、新たな時代で勝利する。正に偉大な産業企業へと変革している最中だ」と答えている。

GEはITやインターネット技術のインパクトを理解しつつ、単に商品やサービスの高度化を目指すのではなく、企業やビジネスそのものを変革、イノベートしようとしている。

イノベーションは製造業の技術や製品だけでなく、サービス業においても非常に重要だ。例としては、QB

HOUSEがわかりやすい。駅中やショッピングモールでよく目にする散髪屋だが、「10分の身だしなみ」というキャッチフレーズの通り、10分1000円で整髪を行う。QB HOUSEは髪を切るという単一サービスに徹しており、シャンプーや顔そりは提供しないから、スタッフはヘアカットのみに集中することができる。

創業者は、以前高級理容室を利用した際、髪を切るだけで半日もかかることに疑問を感じ、理容室に本当に求められているサービスに絞って、現在のビジネスモデルを構築した。

QB HOUSEの例は非常に分かりやすいのだが、同じようにユニクロも全く新しい業態というわけではなく、散髪屋や洋服屋のビジネスモデルを刷新したということだ。世の中には短時間で前と同じ髪型にして欲しいという人もいれば、服を選んでいるときに店員に話しかけられたくないという人もいる。そのニーズを掴めるかどうかだ。

こうした逆転の発想を思いつき事業化することは、今後あらゆる企業で必要となるのだが、ここで重要なのが企業体質だ。

企業によっては、部長も課長も上を見て仕事をし、自ら考えていないことが多い。上から指示された仕事を鵜呑みにしてひたすらその範囲でやり遂げる、ということにほとんどすべてのエネルギーを使っている。

計画作成に時間を使うだけでなく、それをどういうビジョン、戦略で実行するのか、どうやって具体的に現場のアクションに落とし、経営改革を進めるのかについて計画作成に倍する時間を使わなければならない。要は、「自分の頭で考えて、積極的に発言し、行動する」力を身につけるとのことだが、これがこれからの厳しいビジネス環境に打ち勝つために欠かせない。